資料　4

その他の情報交換・意見等

西日本旅客鉄道　株式会社　　広島支社

移動等円滑化に係る駅のバリアフリー設備の整備状況につきましては、令和2年度の実績として、山口県域の2駅がエレベーター等の使用を開始いたしました。
また、広島県域においては、芸備線の安芸矢口駅で整備を実施中です。

【令和2年度　整備内容】

・山陽本線　南岩国駅
主な設備　エレベーター（2基）付きこ線橋、ホームのかさ上げ、内方線付き点状ブロック、触知案内図、音響案内装置、列車接近表示器、多機能トイレ

・山陽本線　　柳井駅
主な設備　エレベーター（3基）付きこ線橋、ホームのかさ上げ、内方線付き点状ブロック、触知案内図、音響案内装置、列車接近表示器、多機能トイレ

（※いただいた原文のまま記載しております。）

広島国際空港　株式会社

・６月まで、ターミナルビル、駐車場、滑走路はそれぞれ運営(所有者)が異なっており、単体でのバリアフリー達成が主眼となっていた。
・しかしながら、空港の一体化運営により、広島空港ビルディング株式会社は広島国際空港株式会社に吸収合併され、国営及び県営の駐車場は当社の運営となった。7月からは滑走路も当社の運営下となり、空港全体の一体化運営が始まった。
・今後は、ターミナルビルのみならず、駐車場や滑走路を含んだ空港全体としてのユニバーサルデザイン(バリアフリー含む)の向上を行い、すべての方が使いやすい空港を目指す。
・更には、空港を使用するにあたり、重要となるアクセスについても、関係者、行政等へ働きかけを行い、連携を密にし、ユニバーサルデザインの向上を目指したい。

（※いただいた原文のまま記載しております。）

公益社団法人　全国脊髄損傷者連合会　広島県支部

先日の「JR来宮駅での乗車拒否」報道については様々な意見があるようですが、できるならば炎上する前に手を打っておいていただきたかったです。
つまり、「できること」と「できないこと」を理由等（コスト、安全など）とともに明確にして公開情報としていただけていたなら、これほどの騒ぎにならなかったように思います。
多くの障害者は、無人駅になる経緯や維持費が掛かることも理解して、自前で代替手段を用意するなどしていますが、そうでない方々がいるのも事実です。
理想の『移動等円滑化』は、基本的には介助が不要となるように段差等を解消していただき、真の意味で『アクセス・フリー』としていただきたいところです。一方、利用率が低い無人駅のようなところでは「其れなり」にといったところです。
しかし、抜本的に改善されなければならない部分もあります。
乗合バスや鉄道などは、良い先進事例のある都市（サンフランシスコ、シアトル、バンクーバー、ロンドンなど）に倣って、車椅子利用者が介助（乗務員等によるスロープ設置など）無しでも車両の乗降ができる環境を整備していただきたい。これは、ベビーカー利用者や杖をつく人などにとっても良い環境になります。
エレベーターやスロープ、車椅子用スペースなどは、安全面を考慮して複数・分散して設けていただきたいです。

（※いただいた原文のまま記載しております。）

NPO法人　高次脳機能障害サポートネットひろしま

高次脳機能障害は新しい障害と思われていますが、脳の障害が解明されていなかっただけで、元々そういう人はたくさんいて変な人と思われていた人だと思う。
脳血管障害や脳炎、交通事故、転落など年齢の幅も広く社会全体で理解しなければならない障害だと思います。啓発を20年近く活動していますが、外見が普通に見えるためなかなか広がらない状態です。相談に来られる人は10年20年と長く苦しんで、誰の助けも得られなかった人が多いです。心のバリアフリー障害の理解のある社会をどうすれば実現できるのか、日々葛藤しております。

（※いただいた原文のまま記載しております。）

特定非営利活動法人　障害者生活支援センター・てごーす

今年度から、国土交通省による移動円滑化評価会議は複数回開催できるという話し合いが持ち込まれ、是非中国分科会でも行いたいと思っています。
なぜなら、広島駅、本通り、新サッカースタジアム等のバリアフリー化に際して、多分野において一堂に会さずに関係者だけで良いので、複数回の開催を強く訴え、それを行って頂きたいです。

（※いただいた原文のまま記載しております。）

聴覚障害者のバリア＝電話

総務省の「聴覚障害者等による電話利用の円滑化に関する法律」が2021年6月より始まります。具体的には全国にある聴覚障害者センター（設置主体　広島県）で、電話リレーサービスというパソコンのテレビ電話を利用して、手話通訳者が目的地（病院、学校、料理店、市町役所、その他）へ用件を取り次いで依頼者のろう者へ回答する（依頼者と相手方との双方向での発信）制度が始まりました。

24時間365日の場合は、いくつかの事業所が行い有料です。

広島県では、広島県聴覚障害者センター（南区皆実町1丁目）が電話リレーサービスを行います。利用者は一応の登録が必要です。時間制限があります。無料。「電話で本人確認」ということがありますが、少しずつ変化していきます。

（※いただいた原文のまま記載しております。）

信号機の「交通弱者用押しボタン」の設置場所について（県公安委員会との連携）

横断歩道の歩行者用信号機などには青時間を延長するための「交通弱者用押しボタン」が取り付けられたものがあり、お年寄りやケガなどで歩行に時間がかかる方や車いすを使われる方にとっては、大変助かる機能と思われる。

ただ、中には実際に車いすに乗ったままでボタンを押そうとした場合、車イスが斜めに傾き、腕を高く伸ばさないとボタンに届かなかったり、車イスが自然に動き出しそうで危ないのではないかと思われるようなものが見受けられる。

交差点や横断歩道の構造上の問題があるためかもしれないが、せっかくの装置なので、県公安委員会等と連携し、使う人がより安全で使いやすいものになればと思う。

（※いただいた原文のまま記載しております。）